

＜トピックス＞持続的な流域連携に向けた取組

良質な水資源の安定的な確保を図り、健全な水循環系を構築するためには、受益地域である下流部と連携し、流域全体が一体となって水源地域の活性化等に取り組むことが重要となっている。

ここでは、流域連携を持続的に行うための仕組みづくりに先進的に取り組んでいる吉野川流域の事例について紹介する。

嶺北地域の五ヵ町村では、広域事務組合が中心となって、吉野川水源の森体験林業、下流地域への情報紙の発行、嶺北地域の探検、など様々な上下流交流事業を実施してきた。

しかし、平成6年の大渇水を契機として、徳島市民が中心となって「吉野川源水を育む会」を結成し、資金を募り嶺北地域の活性化のために活用するといった、下流住民から嶺北地域へのアプローチが始まった。

一方、嶺北地域では、平成11年に「森林と市民を結ぶ全国の集い」を誘致したことにより、全国規模のイベントを担うという初めての経験を通して、地域を活性化させることへの機運が高まっていった。

このように、嶺北地域住民の自ら地域づくり活動についての関心が深まる中で、嶺北の森林資源を用いた環境学習プログラムを開発し、れいほく地域の住民が自ら指導者となり、教材を車に乗せて下流地域で出前講座「れいほく環境ワゴン」*1を行うこととした。

れいほく環境ワゴンの具体的内容としては、下流地域へ出向き、嶺北地方の間伐材や木の実を使った木工教室や天然水の試飲等を行うものであり、実施に当たっては、これまで嶺北地域と上下流交流を行ってきた下流地域のパートナーと連携し市街地や小学校で実施されている。

これにより、参加した嶺北地域住民も下流住民と直接ふれあうことにより、流域連携を行う上での自信にもつながり、流域連携への更なる意欲高まりにつながり、NPOの設立に向けた意識の高揚が図られることとなった。

平成14年3月に、れいほくNPOが設立されており、その役割としては、流域連携の実施に当たり、下流地域との窓口になるとともに、行政とも連携し流域連携を促進するための企画を行うこととしている。また、流域連携を円滑に進め



るため、専門的に活動を行う個々のNPOのとりまとめ、行政との調整などを行うこととしている。

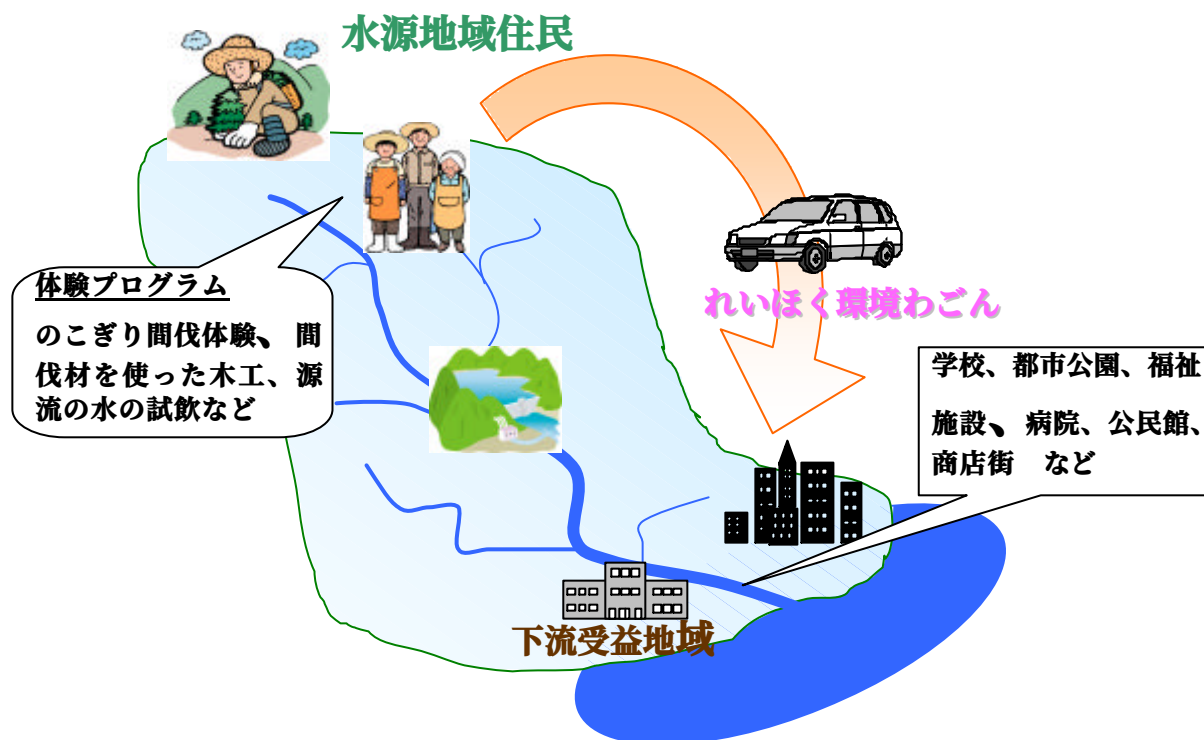
流域の持続的な関係を築いていくためには、水源地域の住民、行政、事業者が連携する場として

*1 「環境わごん(商標登録)」 NPOにより嶺北地域で取り組まれている社会活動の名称

「プラットフォーム」のような仕組みが必要である。プラットフォームの上では、様々な立場の人の考え方を繋げていくことにより、水源地域に暮らす人々の知恵や経験が相乗効果により発揮され、水源地域の活性化に結びつくと考えられる。

嶺北地域においては、れいほくNPOがプラットフォームの役割を果たし、水源地域の活性化について様々な議論が進められている。

れいほく環境わごんの取り組み



水源地域プラットフォームの役割

